日出町歴史資料館・日出町帆足萬里記念館

令和７年第１回特集展

日出は港の博物館

2025 2/18(火) ▸ 6/22(日)

主催　日出町歴史資料館・帆足萬里記念館
日出町教育委員会社会教育課

Ⅰ　日出の港のまなざし

現在、日出は陸上交通の要所となっており、日々多くの人々や車が行き交います。かつて、海上交通でも要となった地であり、多くの良港が営まれてきました。そして、船を使った交易を通して大量の物資が輸送され、港には交易品を目当てにした商人達が各地の港に集まり商業が発展しました。

港の地理的重要性にいち早く着目したのが鎌倉幕府の執権である北条氏です。嫡流である北条得宗家とその一門は日本各地における交通の要所に関わる地頭職を数多く獲得しましたが、その中の一つに日出・津嶋の地頭職が含まれていたのです。弘安 8 年 (1285) に作成された「豊後国図田帳」によれば、日出・津嶋の地頭は北条貞時 (鎌倉幕府第 9 代執権) が押さえていたことがわかります。また、「豊後国図田帳」の別系統の写本として伝来した「豊後国田代注進状 (大田文)」には海部郡佐賀郷の地頭職も北条貞時であったと記されています。当時の佐賀郷は佐賀関半島の先端部にある関所「佐賀の関」と半島の付け根部分にあたる「佐賀の市 (現在の大分市坂ノ市地区)」に分かれていたとされています。

日出でも「藤原町」・「八日市」・「頭成」といった市場に関係する記録が残っていることから、港の側には市が立って交易が盛んであったことがうかがえるのです。

Ⅱ　八代港

日出町と杵築市との境に位置する八代港は金輪島という名勝を抱える港として有名です。八代の地名の由来について、岡藩の唐橋世済等が編さんした『速見郡誌』では武内宿禰の長男である波多八代宿禰 (羽田矢代宿禰) がこの地に居を構えたことによるという古老の言い伝えを紹介しています。

八代村は地理的には北・東は八坂荘 (現在の杵築市杵築) と接しており、中世以前には八坂荘歳田 (年田) 村の一部と認識されていたようです。江戸時代の八代村の地誌書である「八代村図跡考」には保安元年 (1120) に歳田の領主である歳田大和守が作成した譲り状の一部が載せられており、歳田大和守が堂園道運に八代の地を譲ったとされています。このことから八代に住む人々にとって、歳田や熊野、野田といった八坂荘は歴史的に結びつきの強い地域であったことがうかがえます。江戸時代には八代村は日出藩領となっており、村

日出の港
国土地理院地図

の周囲は幕府領や杵築藩領で囲まれた形となりましたが、『八代村図跡考』には村の北西部だけが同じ日出藩領の北大神村照川と接しているため飛び地扱いされない、ということが記されています。

現在、安楽寺の南の台地には「港」という字がありますが、この台地の下は絶壁となっており港は存在していません。「八代村図跡考」には過去の地震や津波による被害の記事があり、この港も過去の津波で失われたのかもしれません。

海から見た八代港
小柳和宏氏撮影

Ⅲ　真那井港

日出町東部にある真那井区の南は別府海に面しています。中世の真那井港は浮嶋八幡神社の南にあったとされ、江戸時代以降における干拓によって現在の場所に港が移動したものとされています。

真那井の地名の由来について、『真那井村老庚申待惣会夜話』などの郷土誌は『古事記』や『丹後国風土記』等に載せられている神話に登場する「真奈井」と呼ばれる神聖な泉の名前にその起源を求めています。『真那井村老庚申待惣会夜話』には明治 7 年 (1875) から翌 8 年にかけて真那井村が八代村との合併を協議した際には村名を廻って議論が紛糾した旨の記事を掲載しており、真那井が日本の神話に由来する神聖な地名であるということから合併後の村名も引き続き「真那井」が用いられることになったと記しています。

中世の真那井港跡
小柳和宏氏撮影

真那井村が史料上において確認できるのは弘安 8 年 (1285) の豊後国図田帳であり、当時は戸次一族が支配していました。しかし、室町時代後期には真那井村の支配権が戸次一族から大友氏に移ったとされています。大友氏は渡辺氏に真那井村を与え、直属の水軍衆を結成させました。「真那井衆」と呼ばれた渡辺氏とその一統は大内氏や毛利氏などの戦国大名との戦争で活躍しました。浮嶋八幡神社に伝わるクリス (東南アジアで用いられた剣) は、大友氏による海外との交易の中でもたらされたものではないのかと考えられています。

浮嶋八幡神社クリス剣［日出町有形文化財］

浮嶋八幡神社神面［日出町有形民俗文化財］

Ⅳ　小浦港

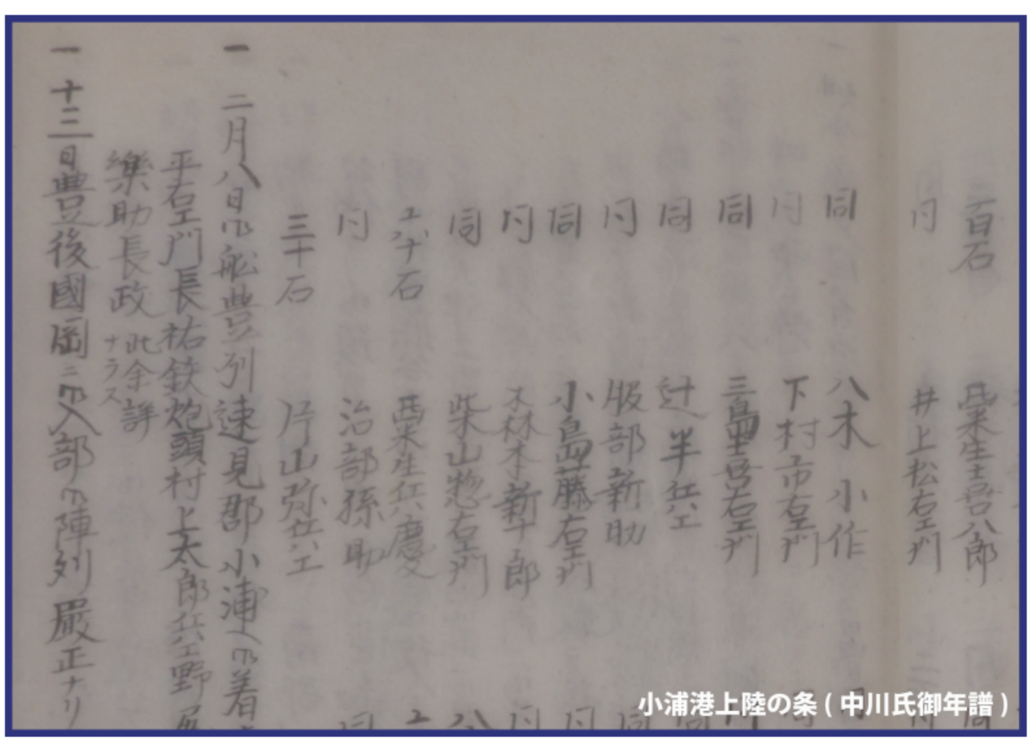
小浦港は江上川の河口に営まれた港です。小浦港が歴史上に最初に現れるのは、文禄 3 年 (1594) 大野郡に転封となった中川秀成が播磨国三木から家臣四千人を引き連れて岡領へ入封するに、小浦から上陸したという出来事です。大分や別府の港ではなく、何故竹田からは遠い小浦港が選ばれたのでしょうか。上陸は 2 月 8 日、寒さ厳しい時期ですので上陸した四千人もの集団の宿営場所の確保が難題だったと思われます。隣接する頭成も関係したのかもしれません。また、大船の寄り付ける港か否かも重要であったでしょう。

江戸時代に入って複雑な変遷はあるものの、貞享

3 年 (1686) 以降、小浦港北岸の小浦村と南岸の小坂村は幕府領となり、港の南西にそびえる海門寺山に幕府の米蔵が設置されました。この場所は陸からは近づきがたく、少人数で管理するには絶好の場所であったと思われます。ここに、幕領の横灘 (別府) 北組 11 ヶ村及び杵築 5 ヶ村、玖珠郡筋 10 ヶ村の年貢米が集められ、江戸へと運ばれたと考えられます。これらの年貢米等の管理は寛政 11 年 (1799) からは預地として譜代の島原藩が担い、幕末の慶応 3 年 (1867) には熊本藩に交代します。

一方、小浦村の庄屋を代々務めた脇屋氏からは脇蘭室 (1764 ~1814) が出、彼が小浦で経営した塾菊園からは帆足萬里が出ます。また、脇屋家は南北朝時代に活躍した新田義貞の弟脇屋義助の子孫とされています。

小浦港（豊岡漁港の江上川河口部分）
小柳和宏氏撮影


小浦港上陸の条 (中川氏御年譜)

小浦港絵図（部分）

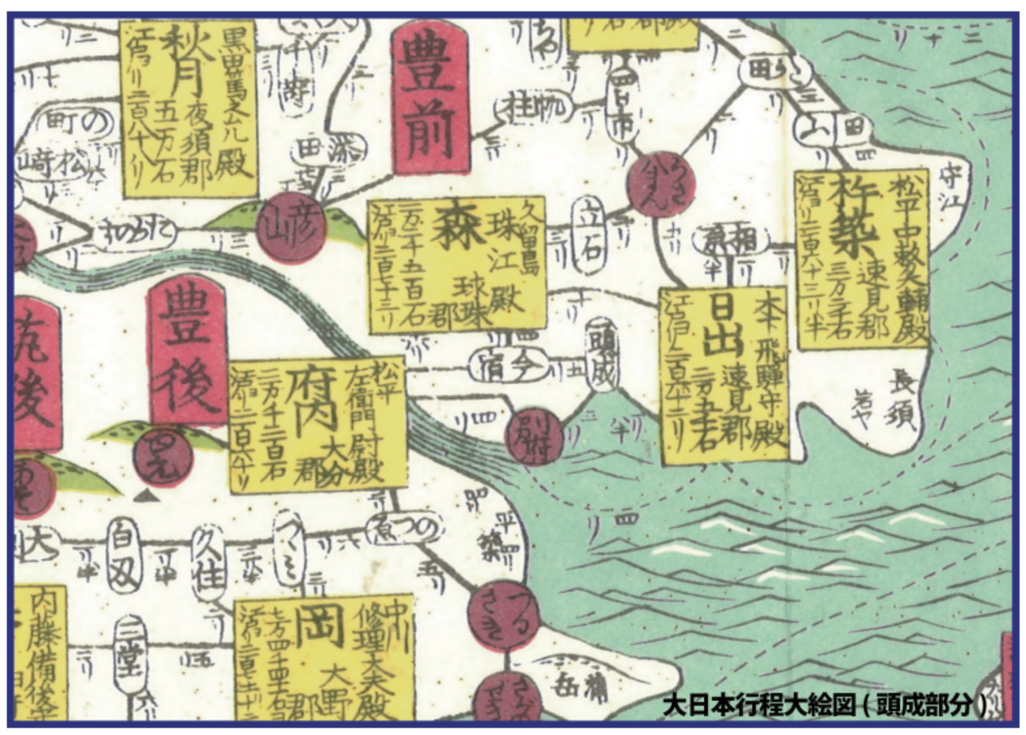
V　頭成港

頭成は中世以来市場町として栄えた町であったと考えられます。それは、メンデス･ピントの『東洋遍歴記』とルイス・フロイスの「1596 年 12 月 28 日付イエズス会日本報告」という約 20 年を隔てて別々に執筆された著作が頭成に関し一致する記述となっているところから判断することができます。16 世紀後半にポルトガル船が日出にもたらした貿易品を、頭成に住んでいたポルトガル人たちがそこの市で売りさばいていたのです。ところが、現在では全く市の姿を確認することは出来ず、史料からも見いだすことは出来ません。かろうじて現地調査から、昭和 40 年代初頭まで「歳の市」と呼ばれる市が毎年 12 月 23 日前後に行われ、正月用品を買い求める多くの人々で賑わったことが知れました。おそらく中世の時代には、もっと頻繁に市は立っていたものと推測されます。

近世に至ると森藩久留島氏の外港として、参勤交代航路の出発地となりました。参勤交代に係わると船手衆や船大工など多くの人々が集住するようになり、町は急速に発展していった模様です。町には旅籠屋や廻船業をはじめとする多くの商人が集まり、漁師町の小浦港と対照的な発展を遂げました。船も藩の御座船三嶋丸だけではなく、豪商たちも神力丸・天栄丸といった大船を持つに至り、神力丸は御座船としても使われた記録があります。

頭成港
小柳和宏氏撮影

頭成港船蔵
小柳和宏氏撮影



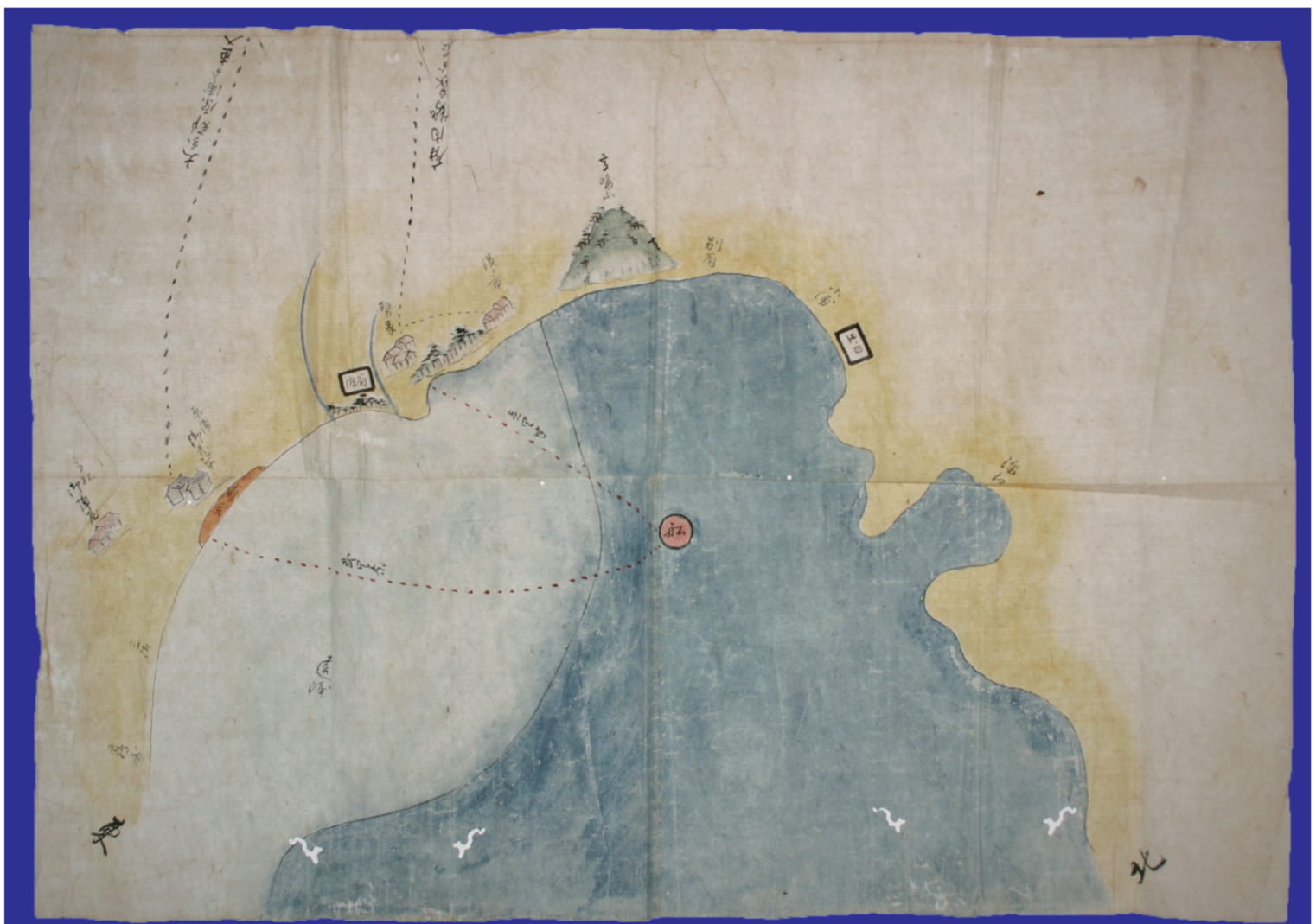
大日本行程大絵図（頭成部分）

Ⅵ　背景としての地形・地理

これまで見てきたように、日出は様々な役割を果たした港が集中した地域でした。それは、日出という地名が湧水の豊富な場所という意味での「ひじ（泥）」という言葉から来ているのだという説があるように、船旅に不可欠の新鮮な水が手に入りやすかったことや、別府・大分と比較して海底が深く大船が寄りつきやすかったこと、あるいは大分・別府から宇佐方面あるいは杵築・国東方面へ至る道の交錯する場所にあたる要衝の地点であったこと、などの地理的要因が大きかったということが出来ます。

ところが、近年の開発などによって、その歴史的地理条件というものは次第に見えなくなり、消えつつあるものもあります。たとえば、現大分市域の海がかつては遠浅で大船が寄りつき難く、明治期に至っても、なかなか海上交通の発展が見られなかった、ということは忘れ去られているように思われます。

そのような、歴史認識の欠落を補ってくれるものが、古い時代に記された地誌や紀行文あるいは絵図類だといえます。幸い大分には多くの地誌類が遺されており、古くは『豊後国風土記』をはじめ『豊国紀行』『海上行嚢』『西遊雑記』『豊後国志』などがあり、それらの地誌情報を紐解きながら、歴史認識のずれを修正し続ける努力が求められるのです。


直入郡拾弐ヶ村御蔵場所替御願見取絵図（大分県立先哲史料館蔵）

【主要展示資料】

Ⅰ　日出の港のまなざし
- 豊後国図田帳写（当館蔵）

Ⅱ　八代港
- 八代村図跡考（当館蔵）

Ⅲ　真那井港
- 浮嶋八幡神社クリス（浮嶋八幡神社蔵）
- 神事面（通称：アマエゴの面、浮嶋八幡神社蔵）

Ⅳ　小浦港
- 中川氏御年譜（竹田市歴史文化館蔵）
- 小浦村絵図（大分県立先哲史料館蔵）
- 題窮理通（当館蔵）

Ⅴ　頭成港
- 大日本行程大絵図（個人蔵）
- 三島神社の板図「多門丸の図」（末廣神社蔵）
- 舟行山水画譜「頭成津」（個人蔵）

Ⅵ　背景としての地形・地理
- 直入郡拾弐ヶ村御蔵場所替見取絵図（大分県立先哲史料館蔵）
- 豊後国志巻之三：速見郡志（写本、当館蔵）

日出町歴史資料館・日出町帆足萬里記念館

【開館時間】9：00 ～ 17：00　※入館は 16：30 まで
【休 館 日】月曜日（祝日の場合はその翌日）
　　年末年始（12 月 29 日～ 1 月 3 日）
【住　　所】大分県速見郡日出町 2602 番地 1
【問 合 先】TEL0977 - 72 - 6100　FAX0977 - 72 - 6103

■所管課　日出町教育委員会社会教育課（文化財係）
〒879-1506
大分県速見郡日出町 3891 番地 2
TEL 0977-73-3222
FAX 0977-72-8680